

令和7年度 十三中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生)

＜国語＞

平均点は大阪府と比べて4.7点低かった。漢字の書き取りは府平均を上回っている項目があり、日々の取り組みの結果が表れていると感じる。一方でほかの多くの項目では府の平均を下回っており、特に「書く」領域の問題については来年度授業の中で取り組む時間を増やす必要がある。

＜数学＞

平均点は大阪府と比べて4.3点低い。無回答率は大阪府以下の問題が多かったが、正答率はすべての問題で大阪府を下回っていた。このことより、練習問題の時間を増やして基礎学力を高めていく必要がある。

＜英語＞

平均点は大阪市と比較して、4.1点低い。空欄を埋める形の記述問題で、圧倒的に正答率が低かった。語彙力に課題があるため、既習項目を繰り返し復習し、会話やスピーチ等の実践練習を通して単語・熟語の定着を図る必要がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)において、

昨年度と比較し、リーディングとリスニング、スピーキングとスコアが上昇している状況である。授業内で、1分間トークや、長文読解にも力を入れた成果かと思われる。CEFR-JもA1.2とA1.3と平均的な生徒が多く、学力の大きな差は感じられない状況である。ライティングが、-1ポイントと下がっており、空白で提出している生徒も約20名見受けられた。今後、ライティングに対する苦手意識を克服するために、アウトプットの回数を増やし、学習を続けていく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において

多くの種目で全国平均を上回った。女子は 体力合計点が53.37点と全国(47.58点)を大きく上回った。また、上体起こし・反復横とび・50m走・立ち幅跳びなど、筋力・敏捷性・走力・跳躍力が高い結果であった。男子はスピード・パワー系が強く、50m走・ハンドボール投げ・上体起こしが高い結果であった。

しかし、男女共に、柔軟性の向上が共通課題である。